

株式会社アーレスティ

2014年3月期 決算説明資料



2014年5月29日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

ご説明内容

- ◆ TOPICS
- ◆ 2014年3月期決算概況
- ◆ 今期の見通し
- ◆ 中期目標

TOPICS

■2013年

- 3 月 旧浜松工場の旧豊橋工場へ(東海工場)の集約完了
アーレスティプリテック豊橋工場増築工事着工
- 4 月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第1期工事竣工
アーレスティウイلمントン増築工事着工
- 7 月 アーレスティプリテック豊橋工場増築工事竣工
- 8 月 アーレスティウイلمントン増築工事竣工
合肥アーレスティ東風日産乗用車公司へエンジンプロック量産納入開始
- 9 月 合肥アーレスティ拡張工事竣工
アーレスティインディア工場拡張工事着工
- 10月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事着工
本社を愛知県豊橋市に移転

■2014年

- 3 月 東京証券取引所市場第1部銘柄に指定変更
- 4 月 アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事着工

今後の予定

- 6 月 広州アーレスティ フォルクスワーゲン グループへの量産納入開始
- 7 月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工予定
- 9 月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工予定
アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事竣工予定

本社移転 & 東証市場1部銘柄指定

13年10月1日付で 本社を愛知県豊橋市に移転

主力事業であるダイカスト事業をより効率的に展開、拡大するため2013年10月1日付で、本店の所在地を東京都中野区から、東海工場およびテクニカルセンターが所在する愛知県豊橋市に変更いたしました。

それに伴い、テクニカルセンターを本社・テクニカルセンター、東京都中野区の事業所を東京本社と名称変更しております。



本社・テクニカルセンター外観

14年3月7日付で 東京証券取引所市場第2部から 同市場第1部銘柄に指定

1961年の東証2部上場から53年、2014年3月7日付で1部に指定変更いたしました。

これもひとえに皆様のご支援のお蔭と深く感謝申し上げます。
自信と誇りをもって、
さらにものづくりを究め、成長を進めたいと思っております。



広州アーレスティ フォルクスワーゲングループへの量産納入開始

広州阿雷斯提汽车配件有限公司



製品搭載車種例：AUDI A4L（写真左）、Q5（写真右） ※車両写真は各公式サイトより、了承を得て掲載

■取引先名：

Volkswagen FAW Engine (Dalian) Co., Ltd.
Shanghai Volkswagen Automotive Co., Ltd.

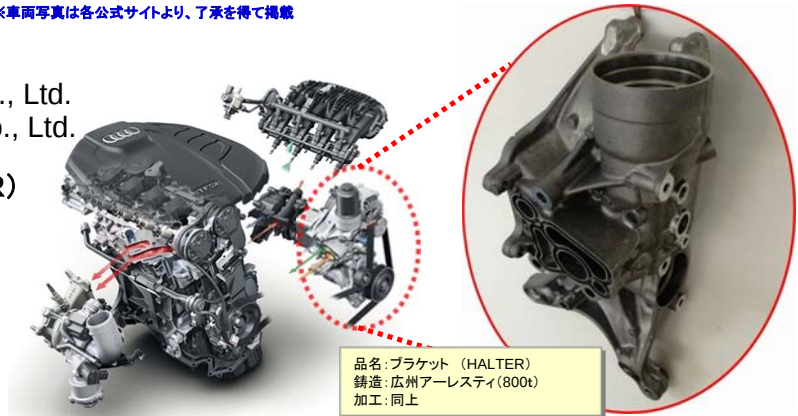
■搭載製品名：ブラケット（HALTER）

■エンジン：1.8L, 2.0L TFSI

■量産工場：広州アーレスティ

■量産開始時期：2014年6月

■搭載車種例：AUDI A4L, Q5



アーレスティメヒカーナ生産能力増強

Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.

鋳造工場の増床工事及び、鋳造設備の増設を行い、
15年度までに生産能力を2割程度増強予定。

■鋳造工場増床工事

2014年4月着工
9月竣工予定



2014年4月末現在

（工場面積） 土地 約100,000㎡ 建屋 約32,200㎡

（増床予定面積） 建屋 約920㎡

（ダイカストマシン台数） 22台 ※15年8月にかけて5台増設予定

アーレスティメヒカーナ鋳造工場増床エリアイメージ図

2014年3月期決算概況



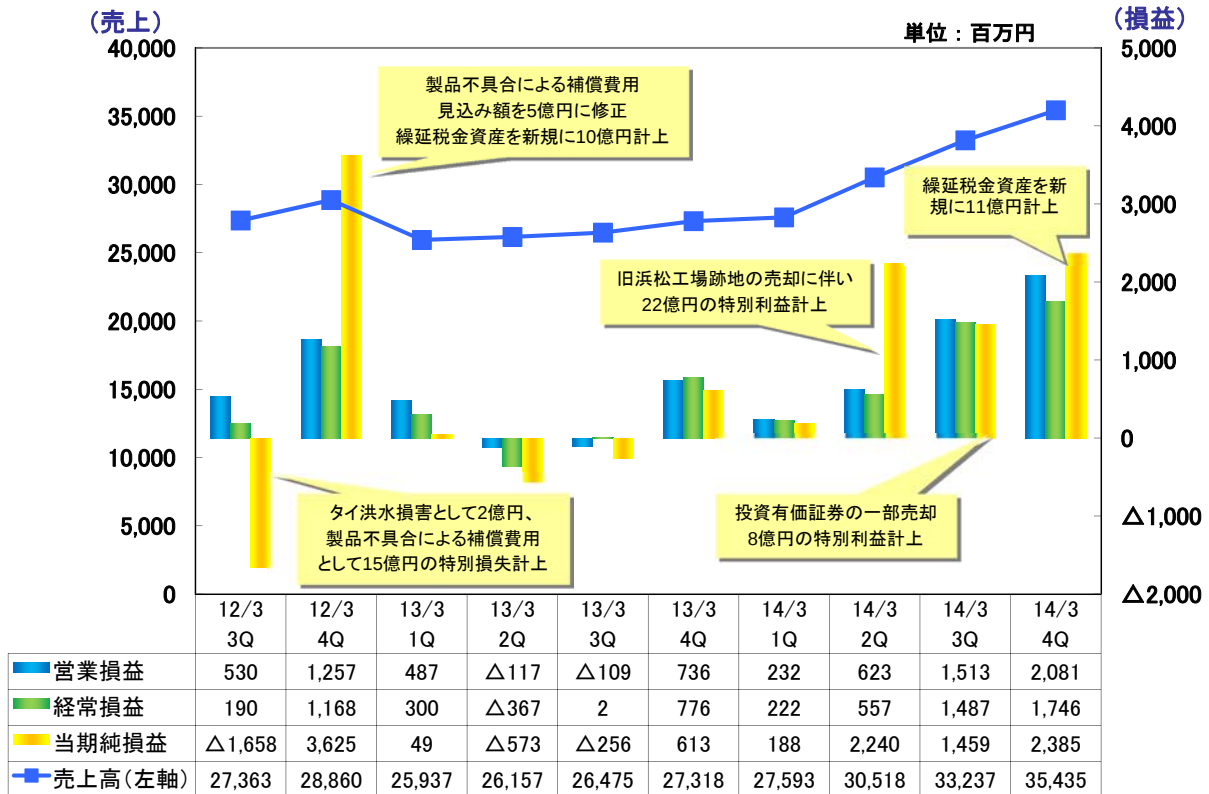
2014年3月期 決算のポイント

(単位: 百万円)

	2013年3月期		2014年3月期		増減	
売上高	105,887	100%	126,783	100%	20,896	19.7%
営業利益	997	0.9%	4,449	3.5%	3,452	346.1%
経常利益	711	0.7%	4,012	3.2%	3,301	464.0%
当期純利益	△ 167	△0.2%	6,272	4.9%	6,439	—
EPS	△ 7.76		287.10		294.86	

- ◆ 売上高: 国内ではエコカー補助金終了による反動減等の影響(特に1Q)による減少があったものの、消費増税前の駆け込み需要増、地金市況影響等により増加、海外では受注増と円安基調にある為替影響等により、売上高は1,267億円(前期比19.7%増)と増加した。
- ◆ 営業利益: 今期より変更した減価償却方法の影響による増益効果(21億円)に加え、増収効果、原価低減効果等により、営業利益は44億円(前期比4.4倍)となった。
- ◆ 経常利益: 為替差益が123百万円増加しているものの、支払利息が242百万円増加していること等により、経常利益は40億円となった。
- ◆ 当期純利益: 増減の主な理由は、経常利益の増加のほか、旧浜松工場跡地の売却による特別利益22.8億円、投資有価証券の一部売却による特別利益8.3億円、繰延税金資産約11億円の計上による。

連結決算概要(四半期別)



ダイカスト事業

(単位：百万円)

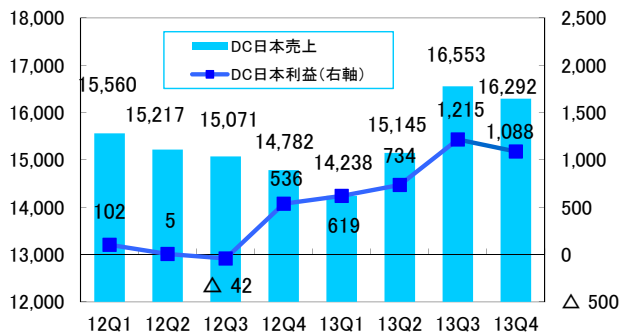
		2013年3月期		2014年3月期		増減	
日本	売上高	60,630	100%	62,228	100%	1,598	2.6%
	セグメント損益	601	1.0%	3,656	5.9%	3,055	507.9%
北米	売上高	22,886	100%	33,906	100%	11,020	48.1%
	セグメント損益	744	3.3%	509	1.5%	△235	△31.7%
アジア	売上高	16,736	100%	24,143	100%	7,407	44.3%
	セグメント損益	△521	△3.1%	180	0.7%	701	—

ダイカストセグメントの海外売上高比率 2013/3月期:39.5% ⇒ 2014/3月期:48.3%

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)

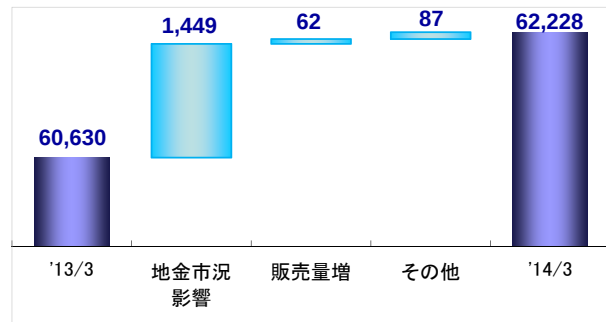


エコカー補助金終了による反動減等による売上の減少があったものの、消費税増税前の駆け込み需要等による増加、地金市況の影響により、売上高は増加。

セグメント利益は、減価償却方法の変更を含む減価償却費の減少、製造コスト削減の効果等により、大幅に改善し36億円(前期比6倍)となった。

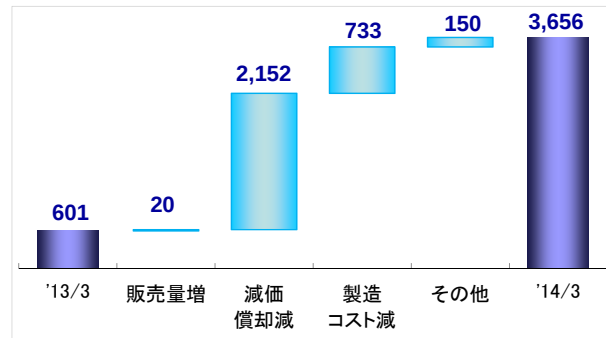
売上高増減要因

(百万円)



セグメント損益増減要因

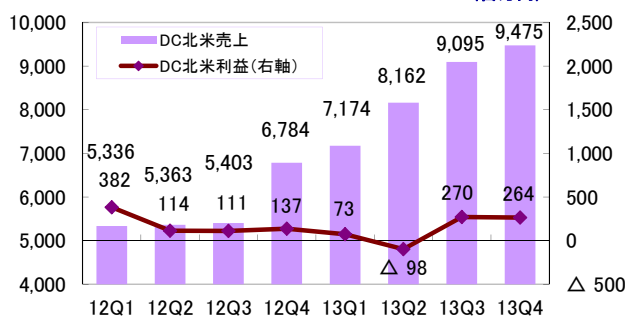
(百万円)



減価償却方法変更影響: 1,743

ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



アメリカ: 好調な自動車販売から受注が増加、また円安基調にある為替影響もあり売上高は増加するも、一時的な費用増により利益が減少。

メキシコ: 受注の増加に加え為替影響も相まって売上高は大幅に増加。減価償却費の増加、上期に高負荷に伴う製造コストの増加があったものの下期に改善。

北米の損益は前期比減益であるが、収益は下期以降回復しつつある。

※アメリカ 4-3月
メキシコ 1-12月

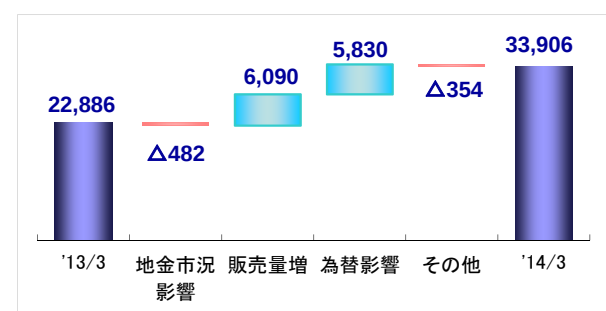
平均レート(13/3→14/3)

米\$ 83.23→99.99

メキシコ(米\$) 79.93→97.11

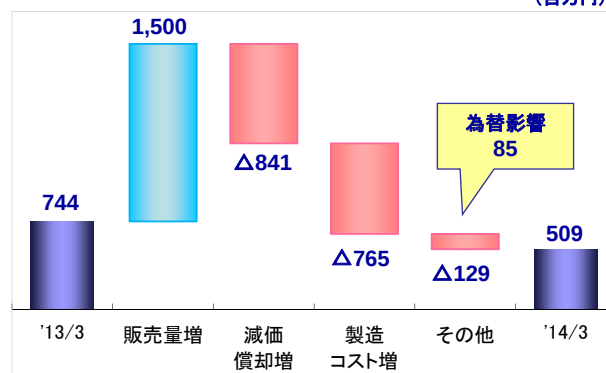
売上高増減要因

(百万円)



セグメント損益増減要因

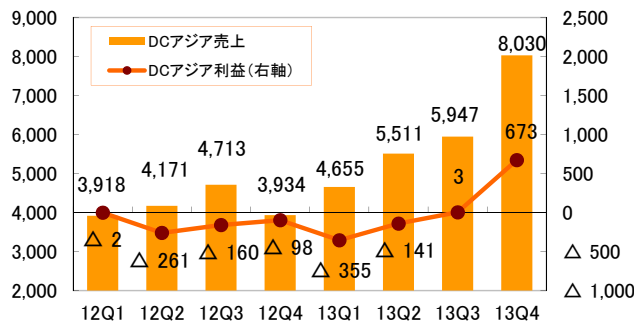
(百万円)



減価償却方法変更影響: 355

ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



中国：日中関係の動向を受けて減少した自動車生産が従来の状態まで戻りつつある中、為替影響を除く売上高は18%増。操業3年目の合肥は4Qに黒字化。減価償却費の増加、日本へのロイヤルティ支払の増加があったが製造コスト削減効果により吸収。

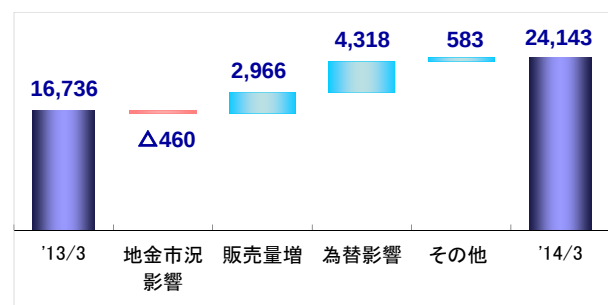
インド：売上高は当初想定を下回っているものの前年同期より増加し、減価償却方法変更の影響も相まって、損失は大幅に縮小。

アジアの収益は改善しつつある。

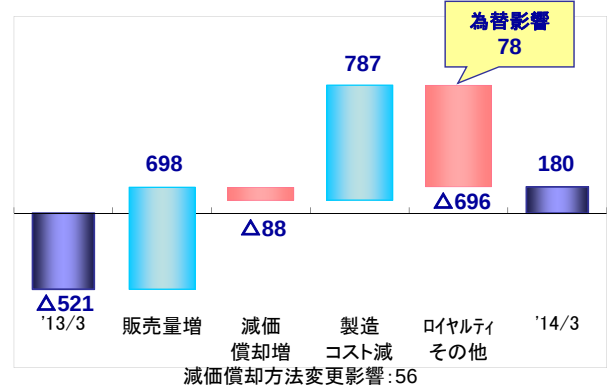
※中国1-12月
インド4-3月

平均レート(13/3→14/3)
人民元 12.69→15.80
インドルピー 1.54→1.67

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



アルミニウム事業及び完成品事業

(単位：百万円)

		2013年3月期	2014年3月期	増減
アルミニウム事業	売上	3,840 100%	4,657 100%	817 21.3%
	セグメント損益	50 1.3%	△ 6 △ 0.1%	△ 56 △ 112.0%
完成品事業	売上	1,793 100%	1,848 100%	55 3.1%
	セグメント損益	78 4.4%	66 3.6%	△ 12 △ 14.7%

アルミニウム事業：二次合金地金の出荷量が堅調に推移し、為替影響により販売単価がアップしたこともあり、売上高は21.3%増。セグメント利益は、原材料市況の影響等により670万円の損失となった。

完成品事業：主要販売先である半導体関連企業や通信会社のデータセンター向け物件等の受注により売上高は3.1%増加。セグメント利益は、価格競争の影響により14.7%減となった。

貸借対照表

(単位 : 百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	増減
流動資産	37,153	48,920	11,767
現預金	6,087	8,791	2,704
売上債権	18,620	25,924	7,304
棚卸資産	9,417	10,536	1,119
固定資産	73,599	88,313	14,714
有形固定資産	65,150	78,208	13,058
資産合計	110,752	137,233	26,481
負債合計	71,416	82,641	11,225
買入債務	16,001	19,714	3,713
長短借入金	38,662	43,014	4,352
純資産合計	39,335	54,592	15,257

- ◆ 資産合計の増減のうち5割程度が為替影響による
- ◆ 増資により現預金が一時的に増加。売上増に伴い売上債権及び棚卸資産が増加
- ◆ 主に海外での事業拡大投資より有形固定資産が増加
- ◆ 営業CFを超える投資資金を借入金で調達
- ◆ 純利益の増加のほか、増資、為替換算調整勘定の増加、有価証券評価差額金の増加により純資産が増加

今期の見通し



2015年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2014年3月期		2015年3月期 計画		増減
売上高	126,783	100%	135,300	100%	8,517 6.7%
営業利益	4,449	3.5%	4,800	3.5%	351 7.9%
経常利益	4,012	3.2%	4,000	3.0%	△12 △0.3%
当期純利益	6,272	4.9%	2,500	1.8%	△3,772 △60.1%
EPS	287.10		96.81		△190.29

- ◆ 売上高: 国内は前期の消費増税前の駆け込み需要増の反動減が懸念されるものの通期では増加すると見込まれ、海外はアジア・北米ともに増加の見込みであることから、連結売上高は前期比85億円の増加を予想。
- ◆ 営業利益: 国内は増収による効果が期待できるものの減価償却費の増加等の影響により減益を予想するも、アジア・北米での収益改善により、連結では前期比3.5億円増を予想。
- ◆ 経常利益: 為替差益(前期は4.7億円)を見込んでいないことから前期並みを予想。
- ◆ 当期純利益: 特別損益は見込まず、税前利益に実効税率を加味して予想。
前提為替レート(通期平均): 100円/米ドル、16.5円/人民元、1.65円/インドルピー

2015年3月期業績予想

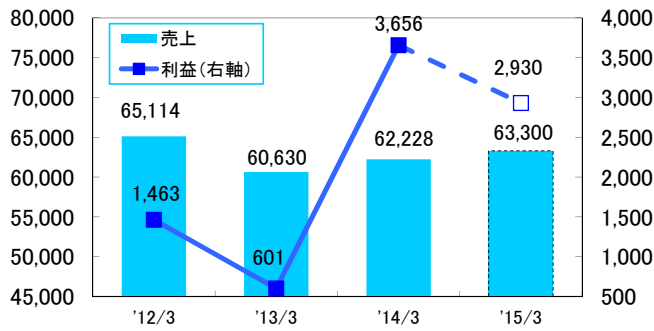
(単位:百万円)

	2014年3月期	2015年3月期 計画	増減	増減率
売上高	126,783	135,300	8,517	6.7%
ダイカスト日本	62,228	63,300	1,072	1.7%
ダイカスト北米	33,906	36,400	2,494	7.4%
ダイカストアジア	24,143	29,300	5,157	21.4%
アルミニウム	4,657	4,700	43	0.9%
完成品	1,848	1,600	△248	△13.4%
営業利益	4,449	4,800	351	7.9%
ダイカスト日本	3,656	2,930	△726	△19.9%
ダイカスト北米	509	850	341	67.0%
ダイカストアジア	180	950	770	427.8%
アルミニウム	△6	50	56	—
完成品	66	20	△46	△69.7%
消去または全社	43	—	△43	△100.0%
経常利益	4,012	4,000	△12	△0.3%
当期純利益	6,272	2,500	△3,772	△60.1%

ダイカストセグメントの海外売上高比率 2014/3月期:48.3% ⇒ 2015/3月期:50.9%

ダイカスト日本

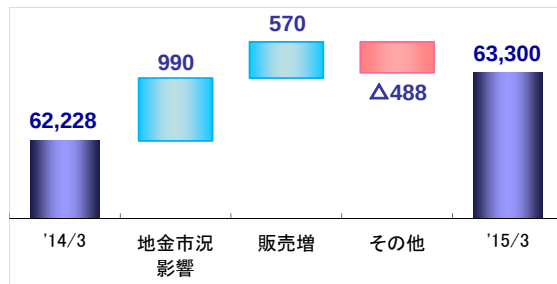
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



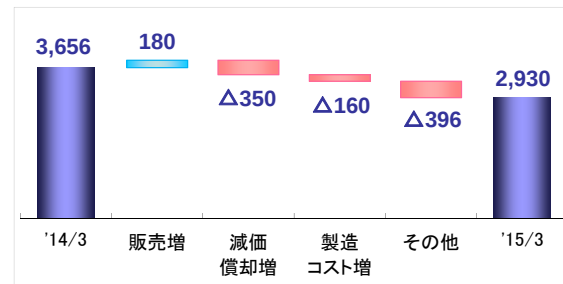
売上高: 前期の消費増税前の駆け込み需要増の反動減が懸念されるものの2Q以降回復し、地金市況の影響もあり通期では増加が見込まれる。

利益: 増収が見込まれるものの、減価償却費の増加、労務費の増加、分割回収金型の利益減少が見込まれることから減益を予想。

売上高増減予測 (百万円)

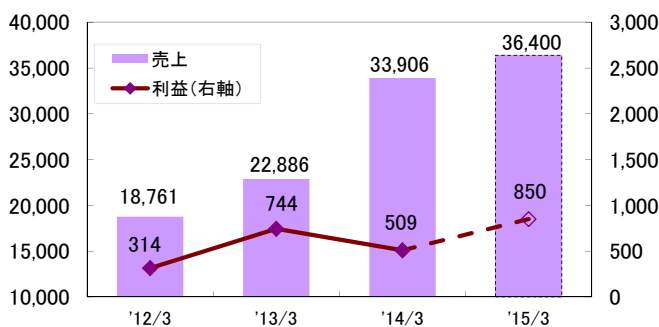


セグメント損益増減予測 (百万円)



ダイカスト北米

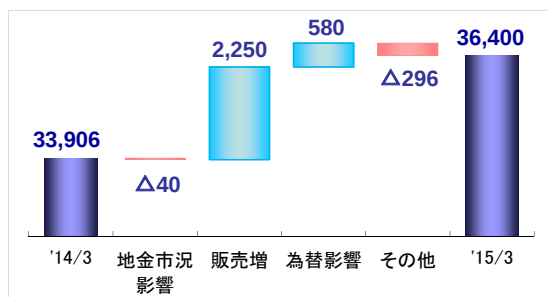
ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



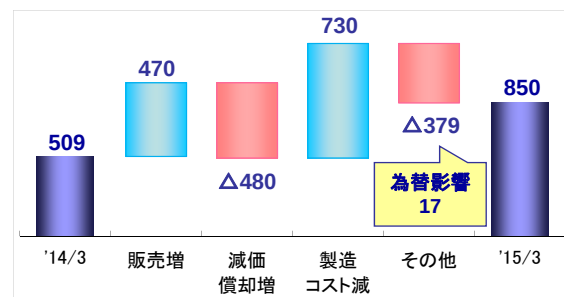
売上高: 前期の伸びよりも小さいものの売上高は増加する見込み。

利益: 減価償却費の増加があるものの増収効果、製造コスト改善により増益を見込む。

売上高増減予測 (百万円)

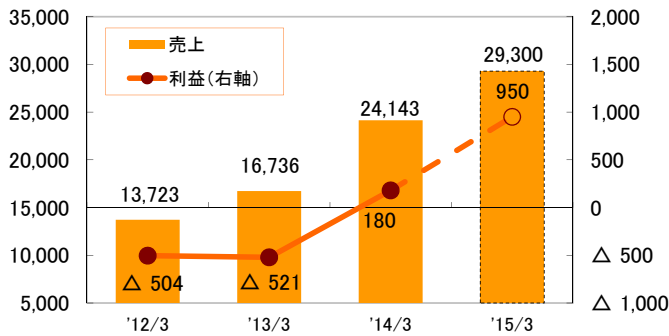


セグメント損益増減予測 (百万円)



ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)

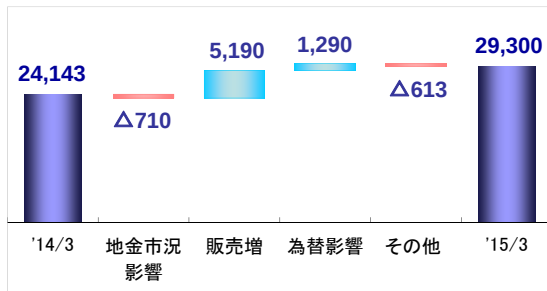


売上高:新規品の立ち上げ、増産等により、中国、インド共に売上高は順調に増加。

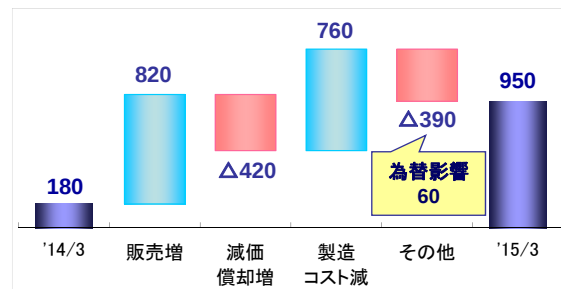
利益:増収効果及び製造コストの削減により、中国広州の利益の増加、中国合肥も順調に売上が増加し黒字化を見込む。インドも増収効果等により改善し損失が縮小する見込み。

アジアの収益性は大幅に改善する見込み。

売上高増減予測 (百万円)



セグメント損益増減予測 (百万円)



配当の状況

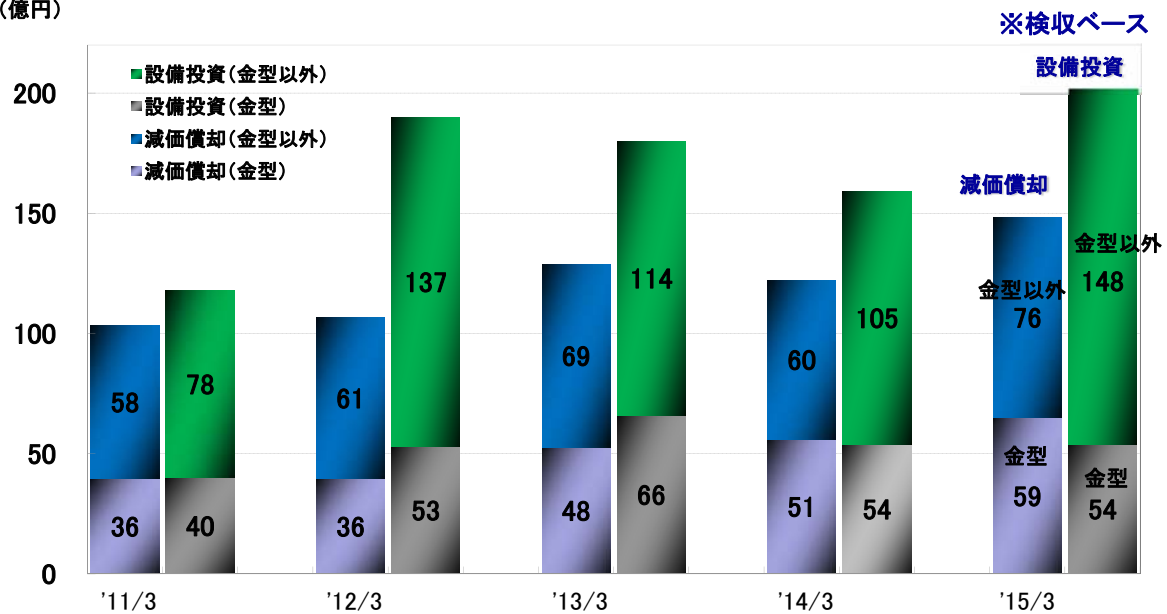
(単位:円)	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	12	6	3	14	12
中間配当	6	3	3	8	6
期末配当	6	3	—	6	6
一株当たり純損益(連結)	68.80	65.87	△ 7.76	287.10	96.81
配当性向(連結)	17.4%	9.1%	—	4.9%	12.4%

- ◆ 2014年3月期は、業績及び記念配を勘案して、年間14円の配当を決定
(中間配当は、創業75周年記念配当5円を含む8円を実施)
- ◆ 2015年3月期は、業績を勘案して、年間12円の配当を予想
- ◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進

設備投資・減価償却の動向

◆海外ダイカスト事業の能力拡充の設備投資を計画

(億円)



※海外ダイカスト拠点の能力拡充を中心に前期比40%増の設備投資を計画(金型以外)。金型投資は前期並み。

中期目標(2017年3月期)

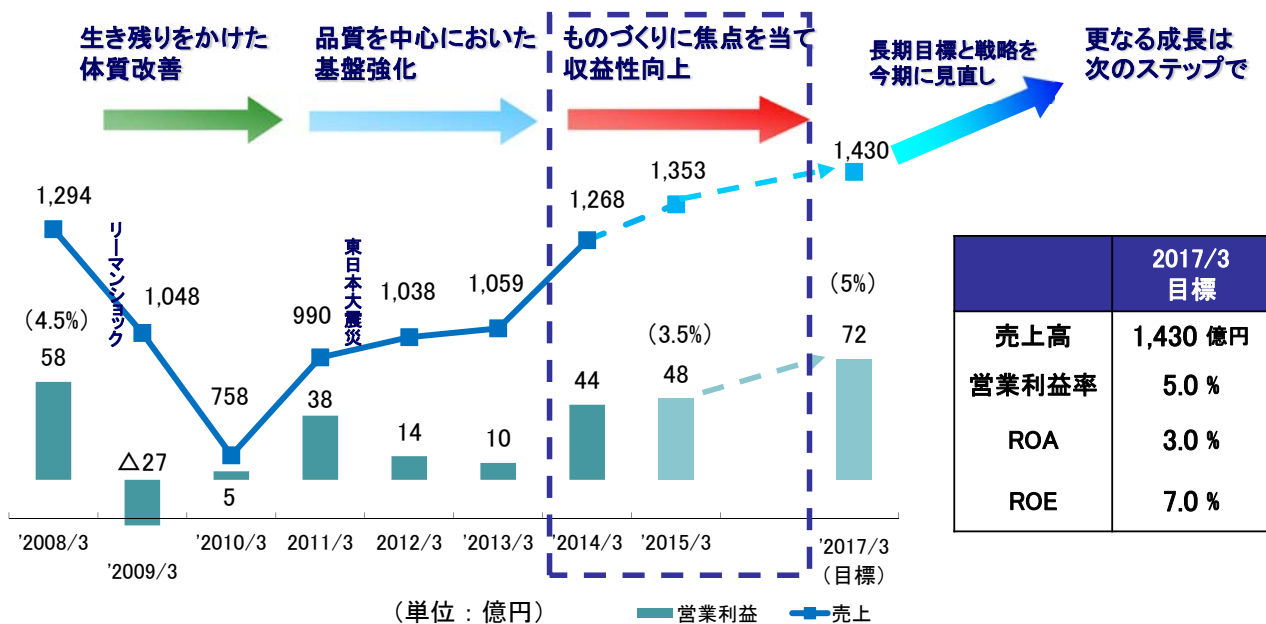


2017年3月期 目標数値

	従来目標 (2016/3期)	2014/3期 実績	評価	新たな目標 (2017/3期)
売上高	1,250 億円	1,267億円	○	1,430 億円
営業利益率	4.0 %	3.5%	△	5.0 %
ROA (総資産純利益率)	3.0 %	5.1% (2.5%)	△	3.0 %
ROE (株主資本当期純利益率)	8.0 %	13.4% (6.7%)	△	7.0 %

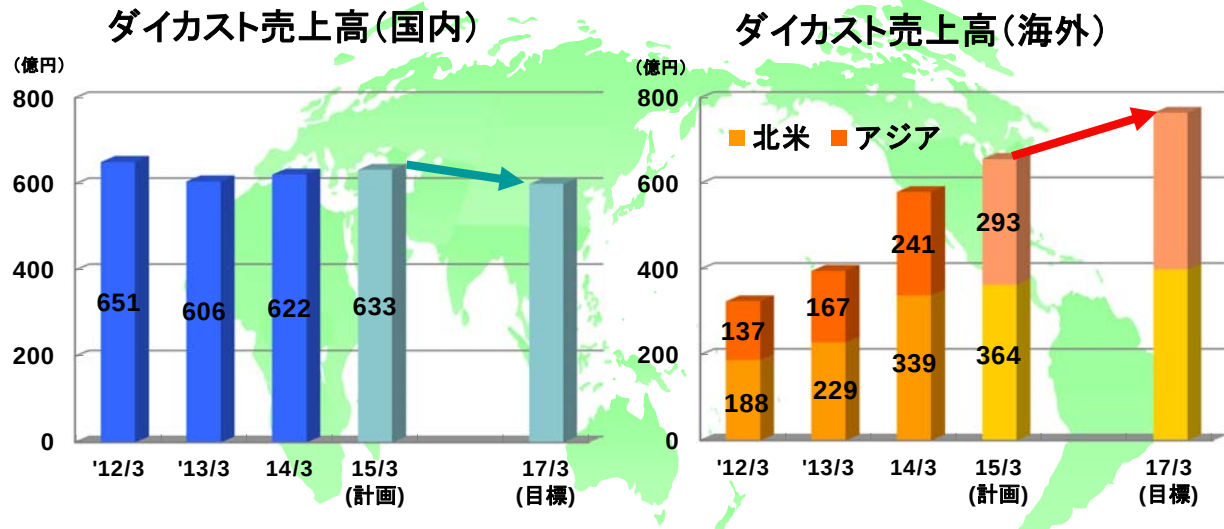
注：()内は旧浜松工場跡地の売却益及び投資有価証券の売却益の影響を除いた場合の値

2017年3月期 目標数値



- ✓ グローバル需要拡大に対応し、中国・北米を中心とした海外ダイカスト事業を拡大
- ✓ ものづくりに焦点を当てた1315中期計画の推進

ダイカスト事業売上高動向



- 日 本: 中期的には国内需要は縮小の方向であるが、積極的な営業活動により一定の売上高と収益を確保。
- 北 米: 需要拡大に対応した能力拡充投資を行いつつ、収益性を向上させていく。
- アジア: 生産性改善等によりインドの黒字化を図り、中国の需要拡大に対応しつつ収益性を向上させていく。

株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.co.jp

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。